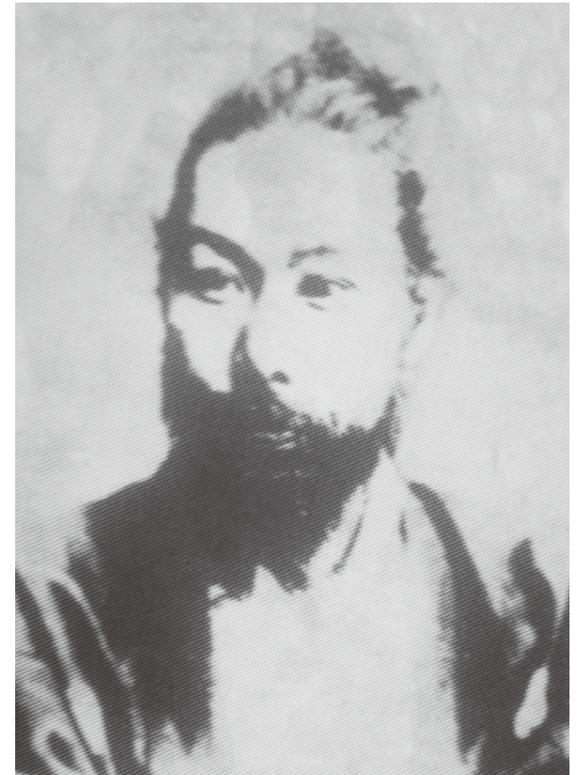


# 宮崎滔天

(1871~1922)



「先天的自由民権家」(著書『三十三年の夢』)と自認する滔天は、宮崎兄弟の末弟。本名は寅蔵(戸籍では虎蔵)、滔天とは号である。幼いころから両親や兄たちの影響を強く受け、激動の時代に己の生涯を掛けるに値すべきものを中国に見出し、中国から日本、ひいてはアジアの人道回復を目指す中国革命にその身を捧げた。

滔天は身の丈6尺(約180センチメートル)と大柄。写真でも、長く伸ばした髪と蓄えた髭は厳つい印象を与える。しかし豪放さとともに繊細な一面があったことも伝わっていて、多くの人に人柄を慕われた。

日本人中国革命家として名を知られている滔天だが、革命の夢は挫折の繰り返しだった。そんな折、1901(明治34)年、「桃中軒牛衛門」の名で浪曲師となった。浪花節語りは決して上手いものではなかったようだが、その独特の語り口は人心を引き付けるものだったようである。

また、その大衆の心を掴む才能は文筆にも発揮され、浪曲師となるまでの半生を回顧した『三十三年の夢』(1902(明治36)年刊行)は、発行当初からベストセラーとなった。中国革命への志と大陸へ見た夢、活躍する人々の姿が生き生きと描きだされている。そしてこの作品は、辛亥革命を語る上で欠かせない、資料としても重要なものである。

「ふるさと荒尾に育った偉人が居ることを、日本人にも、荒尾の人にももっと知ってほしい」——しかし現実として、宮崎兄弟とその偉業が埋もれているのが残念でならないと、宮崎兄弟の生家施設長 安田信彦さんは語る。漢字や「論語」「三国志演義」などに興味を持ったことがきっかけで、中国に対する興味を持ち、大学で中国語を学んだ安田さん。「日中相互理解の懸け橋と

なることが自分の使命」と、生家施設での仕事はやりがいがあると強く語る。安田さんは生家施設を「宮崎兄弟の業績を顕彰し、日中友好に資すること」「市の施設として安らぎの場となること」「文化的事業を行う場とすること」を柱に施設を運営し、また、年に数回は外部から依頼を受け、宮崎兄弟や孫文、中国革命についての講演活動を行う。宮崎兄弟について広く知ってもら

## 世界に誇れる人物「宮崎兄弟」が生まれた郷土・荒尾に、もっと誇りを持って

おうと、就任以来、底辺を広げる講演活動を地道に行ってきた。最近は何度も講演依頼があるという。辛亥革命100周年を来年に控え、周囲の注目度も上がっているようで、要望にしっかりと答えていきたいと語る。

しかし安田さんは「辛亥革命100周年は、飽くまで通過地点」と言い切る。節目の行事で宮崎兄弟と孫文の關係に注目を集め、その後が肝心だという。「良さや重要性をアピールし、伝えていくことが自然に人を呼ぶ。荒尾の人たちにもっと宮崎兄弟とその業績を知って、伝えてほしい」と言葉に力を込めた。中国と日本の關係が揺れ動く中、安田さんは施設を訪れる中国人について

「日本を一生懸命理解しようとしている人ばかり。中国の人に『来てよかった』と思ってもらうことがとても嬉しい」という。そして「この施設と宮崎兄弟は、日本の宝。子どもたちを始め、日本人と中国人の交流の場としても最適。国際感覚を身につけるためにももっと活用してほしい。荒尾と中国の地で交流を行うなど人材を育成していくことが、長い目で見て荒尾と日本に長く残る宝になる」とも語った。

滔天ら宮崎兄弟の思いを継ぎ、日中の新たな相互理解を考えて明日に役立てていける立場こそ、現代の荒尾市に生きる私たちに与えられた、大切に磨くべき「宝」なのだと感じた。



やすだ のぶひこ

1947年生まれ、蔵満在住。北九州大学外国語学部中国科卒業。一般企業を経て、平成15年から宮崎兄弟の生家施設所長を務める。11月20日・21日に行われる辛亥革命100周年直前企画絵画資料展(下の記事を参照)の記念式典では、所長による辛亥革命と宮崎兄弟についての解説を聴くことができる。



▲牡丹茶会の様子。梅や桜、菩提樹など季節の花が楽しめる生家は、市民の憩いの場でもある。

辛亥革命100周年直前企画

### 日中友好の懸け橋—孫文と宮崎滔天—絵画資料展 ~絵画でつづる孫文の功績と歴史資料で顧みる二人の友情~

孫文の生涯と功績を物語風に分かりやすく説明した上海孫中山故居記念館所蔵の絵画60点と、荒尾市宮崎兄弟資料館所蔵の宮崎兄弟・孫文に関する歴史資料を2日間限定で展示します。

- 日時 平成22年11月20日(土) 午前11時~午後6時  
21日(日) 午前9時~午後4時30分

●場所 文化センター小ホール

●入場料 無料

●主催 荒尾市日中友好促進会議、上海市人民対外友好協会、上海市孫中山宋慶齡文物管理委員会



宝くじは豊かさ築くチカラ持ち。

宝くじは、広く社会に役立てられています。



▲展示される絵画資料より 宮崎滔天(左端)と孫文(左から2人目)、孫文と握手を交わす黄興

#### ●絵画資料展1日目(11月20日)

大ホールで記念事業を開催します

- 1. 記念式典(午後1時~) **入場無料**
  - 2. 解説(午後1時20分~)
- 「辛亥革命と宮崎兄弟」  
荒尾市宮崎兄弟の生家施設施設長 安田 信彦 氏
- 3. 記念講演(午後1時45分~)

#### 「孫文と九州の歴史を 生かした中国との 交流の可能性」



九州観光推進機構会長 石原進氏(JR九州会長)